

手取川のこれからの 河川整備について (河川環境・空間利用)



北陸地方整備局

金沢 河川
国道 事務所

現状と課題

河川環境の整備と保全に関する事項

現 状	課 題
・河川空間の年間利用者数は約27万人(H15年度) ・散策、釣り、自然とのふれあいの場として主に沿川住民が利用 ・地域住民等と連携した河川愛護活動 ・沿川小学校と協力して手取川を学ぶ取組みを実施	河川空間の利用の促進
・多様な生物の生息・生育の場である ・河口部にコアジサシの集団繁殖地が存在(石川県最大) ・アユやサケの遡上 ・水質は概ね良好 ・渇水時期に河川水が伏没し、瀬枯れ区間が発生 ・石の河原(手取川の原風景)の減少による、砂礫河床を好む生物の生息・生育環境の変化 ・樹林化による新たな生息・生育環境の定着	多様な生物の生息生育環境の保全・復元

1) 河川空間の利用促進

メニュー

河川空間に親しめるよう施設を整備するとともに、総合学習の場として積極的に利用する。

沿川地域の関係機関と協力してゴミの不法投棄や不法係留に対処する。
パンフレット等を作成し、河川愛護の啓発を行う。

環境教育の支援や川を軸とした地域づくり活動との連携・支援を推進するとともに、河川清掃・河川愛護活動を通して住民参加による河川管理を行う。



地元小学生を対象とした総合学習



ゴミの不法投棄



手取川クリーン大作戦



不法係留船



環境整備イメージパース

2) 多様な生物の生息生育環境の保全・復元

メニュー

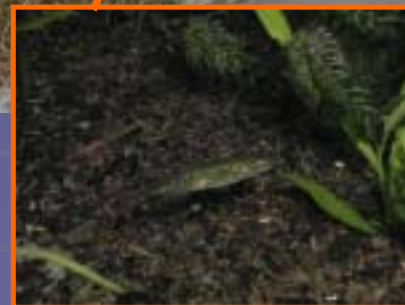
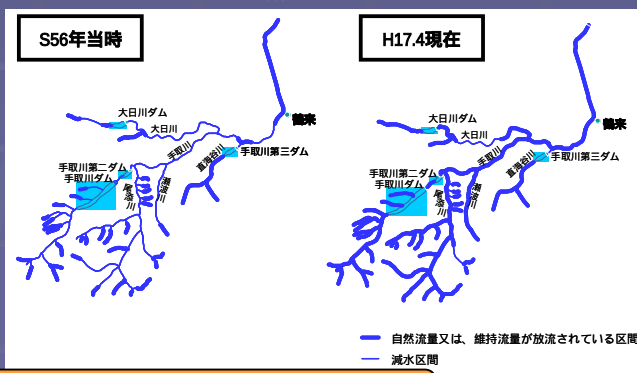
魚類の生息環境改善のため、河川管理者をはじめとした関係機関等により情報交換を行うとともに、調整しながら改善に向けた取り組みについて検討の上実施する。



白山合口堰堤付近



伏没の様子



湧水を生息場とするトミヨ

魚類の遡上・降下阻害の改善(流水・施設)

2) 多様な生物の生息生育環境の保全・復元

メニュー

石の河原に依存する生物と森林性の生物との調和を図りながら、手取川
の原風景である石の河原の保全復元をめざす。

手取川河口部のコアジサシの集団繁殖地の保全に努める。

昭和43年
(1968)



平成7年
(1995)



撮影: 2003(H15)年10月



シロチドリ(石の河原に依存)



アカゲラ(森林に依存)



コアジサシのひな 5

2) 多様な生物の生息生育環境の保全・復元

メニュー

多自然型工法の採用や、工事实施の際には、魚類等の生態系への配慮を検討した上で実施する。

護岸完成直後



完成5年後



多自然型工法の実施例



H17.5.25

仮締切内の湧水箇所にあゆの稚魚が閉じこめられている様子

漁協と協力し、仮締切より河川水を流入させ、あゆの稚魚を本川に遡上